

感染症分野

研究領域

「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2019年	研究期間	5年間
研究課題名	結核と鼻疽の制圧プロジェクト		
研究代表機関	北海道大学 大学院・獣医学研究院		
相手国	モンゴル国	主要相手国 研究機関	国立感染症センター
研究課題の概要			
<p>モンゴルは東アジアに位置する内陸国で、日本の4倍の面積の国土に約300万人の国民が暮らしており、6千万頭に至る家畜が飼育されている。モンゴルは世界でも最も結核が流行している国の一つであるが、動物における結核の疫学は全く不明な状況である。また近年、馬に呼吸器疾患を引き起こす伝染病である鼻疽の発生件数が増加している。本プロジェクトでは、モンゴルにおいて流行する人獣共通細菌感染症である結核と鼻疽に焦点をあて、日本とモンゴルの獣医学および医学研究者が協働し、疫学調査、迅速診断法の開発を行う。動物とヒトにおける結核と鼻疽の蔓延状況を調査し、動物-ヒト間、動物-動物間における病原体の伝達の有無を明らかにする。また、簡便かつ高感度なウシ型結核菌、鼻疽菌の遺伝子診断法（乾燥LAMP法）ならびに鼻疽菌の血清診断法（イムノクロマトグラフィー法）を開発、有効性を検証し、既存のヒト型結核菌に対する乾燥LAMP法と共に、モンゴル国内に普及する。得られた技術によってモンゴルのみならず他国においても結核、鼻疽に罹患する動物の特定と対策が可能となり、家畜衛生、公衆衛生の向上が期待される。</p>			